

令和元年度第1回平塚市障害福祉施策推進懇話会 議事録

1 日時・場所

日 時:令和元年6月26日(水曜日) 14:00~16:00

場 所:平塚市役所本館7階706(2)会議室

2 出席者

参加者:橋本勢作(平塚市民生委員児童委員協議会常任理事)、彦根倫子(神奈川県平塚保健福祉事務所保健福祉部長)、出縄守英(社会福祉法人進和学園理事長)、竹内順子(平塚市肢体不自由児者父母の会会長)、雨宮恵子(平塚地区自閉症児者親の会)、平沼倫枝(神奈川県立平塚養護学校教諭)、松山典子(特定非営利活動法人ひのき会理事長)、安池雅彦(NPO 法人フレッシュベルカンパニー管理者)、市川祥枝(株式会社アクアテックアクア・ケアサービス平塚管理者)

欠席者:村田剛(ほっとステーション平塚施設長)

事務局:障がい福祉課 武井課長、杉崎課長代理、長谷部主査、矢守主査、石垣主任
こども家庭課 仁和担当長、井上主管

傍聴者:なし

3 議 題

【事務局説明】

- (1)アンケート調査結果について
- (2)平塚市障がい者福祉計画(第4期)の基本理念、基本目標について
- (3)その他

【意見交換・質疑応答】

参加者からの主な意見等は次のとおりです。

- ・基本理念、基本目標の変更について、ずっと同じではいけないと思うし、障害がある人もない人もというのは当たり前のため大賛成。
- ・目標に無理がなくて良いと思う。
- ・基本理念のところできらきらした明るい感じの目標が重いと思う。そうじゃない方もいる。どんな人でも生きていだけでいい、命を大事にというのが一番思うところ。
- ・アンケートの集計をする際に工夫して計画に活かせるのではないかな。
- ・基本理念が柔らかくて温かみがあって良いが捉えどころがないと思う。目標が明確でなく、確信が分らないと思う。
- ・日常の中で基本理念を踏まえて生きるということではできない。
- ・とても良いと思う。共生のまちというのが一番の理念。価値観が多様なことが大事。自分らしく生きられる、社会が受容するという理念が今っぽいのではないかなと思う。
- ・きらきらして生きましようという型にはまった感じがして、押しつけを感じてしまう人がいるのではないかなと感じ

- る。外に出たくないという人も認めるのが共生社会ではないかと思う。
- ・今までよりも分かりやすく明るくて良いと思う。
 - ・市の目標(手をつなぎたくなるまちひらつか)も入れられると良いのではないかと思う。
 - ・この場に出たいいくつかの言葉を表現できる言葉があれば、それを使ったほうが、表に基本理念を表現できると思う。
 - ・平塚市が区別すること無く全ての方をそのままを受け入れて考えられる表現ができると、これからに向けたイメージ作りになると思う。
 - ・リーディングプランとの整合性も取れていると思う。ひとりひとりが認め合う、やっていくというのは分かると思う。
 - ・備えるというところで、災害や防災だけでなくということも入れると良くなると思う。
 - ・施策についてオリンピック・パラリンピックをあえて入れるのか。
 - ・基本目標で認め合うというのは基本的なこと。根底になっているのは何なのかを理念に入れると良いと思う。認め合うということはそれぞれを尊重すること。
 - ・共生のまち平塚と入るので、自分のことに捉えられると思う。
 - ・笑顔より命輝くというのを入れたい。存在そのものが大事としたい。
 - ・頼れる社会、頼る社会というのも何かしらどこかに入れてほしい。まずは声掛けして支えあえるようになるのが良いと思う。

事務局から、本日頂いた御意見を取りまとめ、次回の会議で御意見をいただく旨を説明し会議は終了した。

以上